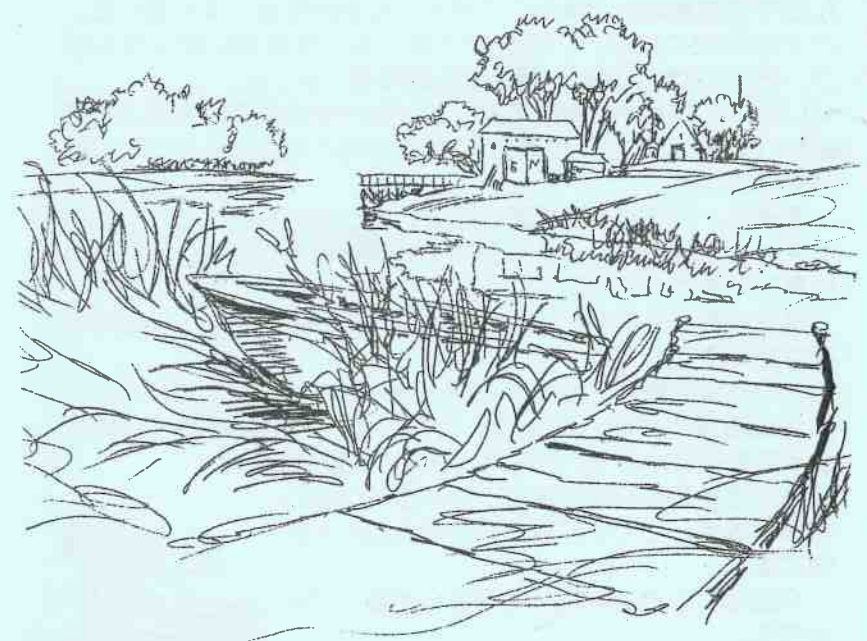


ふれあい雪谷

平成13年

あさがお号



(小池 M. Sさんの作品)

母校の思い出 ⑥ 小池小学校の戦前の姿



昭和10年4月の入学で、5期生である。当時、地域住民が増え続けこの地にも小学校が必要となり、小さいながらも出来たての校舎に1年生から3年生までの生徒が集まったのが、その始まりだと聞いている。(2・3年生は池雪小学校からの合流)私は、その翌々年の入学である。

新校舎は、木造とスレート造りの2階建てで、敷地の東側と北側に建っており、真新しいのが自慢であった。今の校舎が南側につくられているのに対し、その頃はそこが校庭になっていた。南面やや東寄りに正門があったので、生徒たちは正門から運動場を横切って、校舎一階の下駄箱までたどりついていたものであった。

校舎や校庭の位置について述べるにはそれなりの理由がある。冬になると、校舎が北風をさえぎり、そこに南からの陽光一杯の校庭が出来上がる。その冬でも暖かい運動場を、生徒たちは喜々として走り回り、縄跳びをしていた姿を思い描く。夏には夏で、南風の涼を楽しみながら、野外映画会を観賞したりもした。

現在の校舎の内部は、最近の建て替えによってモデル校となっている。今や科学的に究明された設計と機能をもっており、その素晴らしさは見学の際大いに時代の変遷を感じ入った。

私の時代は卒業するとすぐ、昭和16年に第2次大戦に入っていく時代背景にあった。その後、校舎が空襲で焼失し、またその復興と言う大変化があったが、日溜まりでの笑顔の対話があったり、思い起こせば昔ながらの風情をもつ小学校がセピアカラーとなってよみ返って来る。

(池の台 市岡 宏)

サークル紹介 ③ 「バトンクラブ」

私たちは大田区社会教育団体として発足し、創立十周年を迎えました。

数名でスタートしたクラブも、現在は四歳〜高校生までの約六十名で活動しています。

青少年育成団体として、嶺町、雪谷文化センター・雪谷小学校体育館をお借りして、毎週日曜・火曜日に練習しています。

年間行事は、関東バトンコンテスト・青山パレード・嶺町文化センター祭・バトンフェスティバル・クリスマス会と続き、来年の夏には第三回発表会を予定しています。

練習はパワフル

で、にぎやかなバ

トン大好きメン

バー。自分の子供

だけでなく、皆に

公平な母たち。そして得意ジャン

ルがジャズダンス・ヒップホッ

プ・マット運動と、個性あふれる

指導者たちの三つの力でよりよい

チーム作りに励んでいます

キラキラ光るバトン。そして何

より一人一人がキラキラ輝いて地

元に根ざした団体に育ち、バトン

の輪が広がっていくことを願って

活動を続けています。



私の健康法 ⑦

私も、いつのまにか

なんせかい

南雪会の長老格にな

りました。

七十代の半ばまで運

送会社で働き、日本

中を往き来しました。

その間、大きな物を動かすことは

大変な毎日でした。

その後、一時健康をそこねたこ

ともありましたが、無事立ち直

りました。

今では朝はゆつくり起きて、な

んでもよく食べ、気持

ちの上でもゆつたりと

した一日をすごして



「編集後記」
四月に新内閣が発足し、はつらつとした言動に実感のある社会にしたいと絶大な期待を寄せております。
我が《ふれあい雪谷》誌もお蔭様で四十三号を発行する事ができました。皆様のご声援に編集委員一同心より厚く御礼申し上げます。記事の内容、ご意見等含め皆様からのご遠慮のないご投稿を下さる様お願い申し上げます。

四月一日付けで、雪谷特別出張所長が替りました。
(小池 山下 雅巳)
(旧)遠藤 和良 (新)吉田 博
よろしく願います。

(発行) わがまち大田雪谷地区推進委員会
(編集) ふれあい雪谷編集委員会
連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷四一三二二三
電話 三七二九一五一七
平成十三年七月一日
通巻第四十三号

今、思い返すと長生きのひけつは一年でも多く働き、体を動かすことが大切です。

また、偏食などしないで、肉なども好きでよく食べています。

そして敬老会では歌などよく唄っています。のんびり暮らすことも長寿のひけつだと思っています。

つれ合いとは、いつもお互いにもたれ合いながら

毎日を楽しく

生きています。

これも大切な



(南雪谷 篠崎 時一 九十七歳)

介護とは 感謝の気持ち

もしも、ある日突然倒れてしまったら……
ボケてしまったら……
病気になってしまったら……
一人とり残されてしまったら……
生活に対する不安や、介護の問題など、いかに切実なことではないでしょうか。
明日は我が身かも……



私の職業は訪問看護婦です。在宅で寝たきりの高齢者、あるいはさまざまな疾病で在宅療養をしている人、癌の末期の人、難病、痴呆、障害のある人など。それらの人たちが、家庭生活の場において、可能な限りその居室において、自立した生活ができるよう援助するのです。そのためには予防から治療、介護のアドバイスをしてその人の精神的不安の軽減に努め、家族の支援をします。

事例の一つとして、77歳の男性、悪性腫瘍でした。全身に痛みが走り、毎日麻薬を使い痛みを除去していました。ベットから降りることなく、座ることもなく寝たきりでした。辛い食べることだけが楽しみでした。

そんな日を繰り返しながら、段々と体力が落ちていき、奥さんだけでは看病も介護もどうすることも出来なくなりました。とても不安でした。このままでは二人とも駄目になってしまふ。そこで入院、退院、再入院を繰り返しました。

しかし、わずかな時間でも、思い出のある家で好きな人々に囲まれて、窓辺から外の景色を、庭木の花を見ながらすごしたいと思いました。

最後は、「ママ、幸福だったよ。子どもたちをよろしくね」と言って意識のなくなる寸前まで感謝の言葉を述べ、眠るように息を引きとったとのこと。

奥さんも「ありがと。大丈夫よ。安心して下さい」と声をかけたそうです。

その言葉を聞いて私もジーンと熱くなるものがありました。人生の最期に「ありがと」と言える、こんな素晴らしい人生ってあるのでしょうか。羨ましいなあと思いました。

長生きするだけが素晴らしい人生ではないと思います。どうしたらうまく死ねるかも大切です。

介護は、する側される側があって難しいものです。

家庭で、疾病を持つ人を抱えて介護に悩んでいる方々に、参考になり、心の支えになってくだされば幸と思います。



(希望ヶ丘 児玉 三子)

お知らせ！！

雪谷地区自治会連合会長さんが替わりました。
旧、網嶋 澄さん(小池) 新、堀越 昇さん(希望ヶ丘)

小池若者組合

私たちのお祭り団体を紹介します。名前が示すように、組合の設立は古く日露戦争戦役義勇奉公の額縁が残っていることからして、かなりの歴史であると思います。

初代若者頭(組合長)から数えて現若者頭まで三十六代の歴史があり、組合員百十名の組合規約を持った団体です。小池自治会の傘下に所属して、祭礼、年末の餅つき、地域のボランティア、雪谷青少対への協力と祭礼以外にも活躍をしています。

参加者全員のご協力で、年毎に小池自治会の祭礼、行事が盛んになって来ました。毎年の祭礼には貸半天を用意し、どなたでも御興をかつぎ祭礼に参加でき、年末の餅つきは参加者に臼と杵についてもらい、縁起物のお餅をお配りしています。



このような行事を通じて皆様がふれあい、地域の輪が広がることを最大の目的にしています。今、組合では地域交流の輪をいっそう広げるために、活動に参加していただける人を募集しています。小池自治会区域にかかわらず関心のある方は、参加してください。

(小池 安藤 政治)

「夏休み」にむけて

眼を閉じると、暑い夏の日々があざやかによみ返ってくる。絵日記、とんぼ、セミ、かき氷、花火、海水浴…と、子ども時代の思い出は尽きない。今はもう遠い昔のことだが、その日々を通して、現在の自分がある。

子どもの時代に、夏休みは待ち遠しいものだった。それは今も変わらないだろう。6週間という、この長い時間は、ある意味で歴史と向き合う時になる。

今年は戦後56年目であり、戦争を知る人も少なくなり、その事実さえ風化しようとしている。しかし、時代がどのように変わろうとも、多くの人々の生命を奪い、数々の悲劇を生み出すものであることを忘れてはいけないと思う。

最近のニュースを見ると、明るい話題の少なさに辟易する。いとも簡単に人の命が失われ、「生命の尊厳」という言葉が空しく響いてくる。

腹立たしい事実があれば、相手を傷つけても構わないのだろうか。相手を攻撃するゲームでは、リセットすれば相手は何度でも生き返る。しかし、生身の人間が傷つけば、誰もが「痛い!」と感じる。死んだら生き返ることなどできないものである。自分の生命が大切なように、周囲の人々も大切にしたい。

夏休みは、読書し、思索する時間が十分にある。家族で、古典や名作を話題に語り合えたら、楽しい思い出を刻めるのではないだろうか

(雪谷中学校教頭 浜崎 英夫)



自治会リレー随筆

昔を今に生かす試み

へんさん

笹丸自治会ではいま自治会史の編纂に取り組んでいます。私は土地っ子ではありませんが、昭和15年からこの土地に住んでいますので編纂委員の端くれに連なっています。

会史は自治会が創設された昭和2年頃から中原街道の拡幅が完了した頃までの、笹丸地区の住民の生活ぶりを描くということにしました。旧家にあった資料は戦災で焼失し、いわゆる古きの方々のほとんどが数年前に亡くなっていて、仕事は思うようにはかどりません。

大正生まれのKさんは最古参の土地っ子編纂委員ですが、彼女の記憶力は抜群で昭和初期の住宅地図を書いてくれました。これには委員一同脱帽でした。明治生まれのTさんの昔話によると、「11時に九品仏の、12時には本門寺の鐘が聞こえてくる。昭和初年までは皇居のドンが聞こえた」そうです。広辞苑によると、ドン(正午を知らせるための空砲を発した)は明治4年に始まり、昭和4年に廃止とありますからTさんの記憶も確かです。



笹丸自治会史はこんな話がたくさん盛り込まれたものとなることを願っています。同時に単なる「昔がたり集」ではなく、今に生かし次代に伝えたいような生活ぶりを再発見できるものになればと思っています。

(笹丸 森下 輝夫)

俳句

利腕に 老斑見たり 梅雨曇しや (希望ヶ丘 松川 五十五)

柔柳や 地味に古りし 街道碑 (希望ヶ丘 横山 茶々)

梅雨冷えの 庭にひと群 鉄砲百合 (東雪 清水 はりえ)

穂苅を 四方に 位置づけて笑く (東雪 清水 はりえ)

短歌

少年が
明るく育つ街づくり!